

2013年4月10日

2013 フォーミュラ・ルノーALPS 第1大会レビュー ―― 笹原右京、デビュー大会で2レース連続8位入賞――

■大会概要

開催地：イタリア（バレルンガ：一周 4.085km）

開催日：2013年4月5日（金）～7日（日）

■バレルンガ・レビュー

4月6日（天気：晴れ／路面：ドライ） レース1 予選 12番手／レース2 予選 10番手

4月6日（天気：晴れ／路面：ドライ） レース1 決勝 8位

4月7日（天気：晴れ／路面：ドライ） レース2 決勝 8位

2月半ばにイタリアのユーロ・ノヴァからフォーミュラ・ルノーALPSへの参戦を発表した笹原右京（16歳）が、いよいよフォーミュラカーレースデビューを迎えました。第1大会の開催地はイタリア・ローマ近郊のバレルンガで、4月6日（土）から7日（日）の公式日程に先立つ5日（金）には公式練習走行が実施されました。ウェットからドライへと路面コンディションが変化したこの日のバレルンガには、世界17カ国からF1参戦を夢見る36人もの若手ドライバーが集結し、サーキットは熱気に溢れていました。練習走行で笹原は総合27番手に終わりましたが、これはブレーキに違和感を覚えていたのが原因でした。

翌6日（土）のバレルンガは快晴に恵まれました。エンジニアとの打ち合わせをもとにブレーキの違和感を解消する調整をクルマに施した笹原は、2組に分かれて実施される予選のグループAで18人中6番手と上々の順位を得ました。グループBの予選結果と照らし合わせて、笹原はレース1決勝へ12番グリッドから臨みました。

同6日（土）夕刻のレース1決勝（25分間+1周）では、スタートの瞬間にやや出遅れるもその後の加速で前走車両を抜いて11番手で1周目を終わりました。5周目には前方で競り合うライバルのミスに助けられた格好ながら、8番手へ浮上しました。その後、笹原は何度も順位を上げる機会をうかがったものの、追い越しが禁止される黄旗区間に遮られて8位でチェッカーカードフラッグを受けました。

7日（日）午後のレース2決勝（25分間+1周）のスターティンググリッドは、予選で2番目に速いラップタイムを記録した順番で決定されて10番グリッドから臨みました。笹原はスタートに失敗して12番手へ順位を落としましたが、第1コーナーをはじめとする各所で多重衝突事故が発生して赤旗中断、レースは最初のグリッドからのやり直しとなりました。2回目のスタートは無難にこなして10番手を維持してレースを続け、その後は先頭を争うドライバーがリタイアして8番手へ浮上しました。笹原はさらに上位を狙って追い抜きの機会をうかがうも叶わず、それでも8位とレース1決勝と同じ順位でレースを終わりました。

なお、この第1大会には今季のユーロカップ・フォーミュラ・ルノー2.0に参戦するドライバーが、実戦練習を目的に12人も参戦しています。彼らはすでにフォーミュラ・ルノー経験者でフォーミュラ・ルノーALPSへの参戦は制限されており、必然的にチャンピオン争いからは排除されます。つまり笹原がフォーミュラ・ルノーALPSでチャンピオンを争うライバルは、チームメイトのグレッゴ・ラムゼイ（18歳/イギリス）やフェラーリF1チームの若手育成プログラムに所属するアントニオ・フッコ（16歳/イタリア）などです。シーズン半ば以降は、確実に笹原が優勝争いや表彰台争いに加わるでしょう。次のフォーミュラ・ルノーALPSシリーズ第2大会は、5月11日（土）から12日（日）にイタリアのイモラで開催されます。

■笹原右京のコメント

「まず、無事に開幕大会を終えられて、代表、エンジニア、メカニックなどチームのすべてのスタッフにありがとうの言葉を贈ります。また、応援、支援して下さるすべての皆さまに感謝申し上げます」

「さて、練習走行はブレーキングでクルマが不安定で、開幕前のテストよりも早めにブレーキを踏まざるを得ない状態でした。トラフィックの処理もうまくいかず、1回くらいはちゃんとアタックしたかったですね。ただ、それを調整し直して臨んだ予選では、走り始めた瞬間にクルマが良くなったと感じました。不満だったブレーキングも改善され、安心してコーナーへ突っ込めるようになりました。もっとも、1セット目の新品タイヤでのアタックは良かったのですが、2セット目の新品タイヤでのアタックは少し不満です。1分32秒台突入は十分に見えていましたし、セクタータイムをきちんと揃えたらもう少しグリッドを上げられたと思います」

「レース1決勝のスタートの瞬間はあまりよくありませんでした。本番では初めてのスタンディングスタートだったからかもしれません。でも、その後の速度が伸びて何台か抜けました。レース前半のペースは良かったのですが、後半はオーバーステアでペースが上がらず、チームメイトに食らいつくだけで精一杯でした。でも、初めてのフォーミュラカーレースで最後まで走りきり、8位入賞できたのは良い経験になったと思います。ただ、このレースの満足度は20%くらいです。終盤の数周でミスをしたための8位でしたし、感触的には前の2台は抜けるだけのスピードがありましたから」

「レース2決勝では前日の反省をもとにとくにリアタイヤを念入りに温め、あとは回転数をしっかり合わせるだけと考えていましたが、ホイールスピンをさせて大失敗のスタートでした。ただ、クラッシュで赤旗になったので、自分の失敗が帳消しになったのはラッキーでした。赤旗後のスタートは、シグナルが消えた瞬間の出足は最高でしたが、後ろのクルマがすごいスタートで僕を抜いて行きました。レース中は冷静に状況を把握して戦えたと思いますが、前日のデータをもとに変更したクルマのセッティングが大外れで厳しかったですね。この大会を終えての課題は、スタート前にもっとリアタイヤを温めることとスタート練習を積むことです。収穫は、スタートで遅れても頭は冷静であったことで、抜けるか抜けないかという判断がきちんとできたことです。4月10日にはミサノでテストがあるので、5月12日にイタリア・イモラで開催される第2大会への準備をしっかり整えたいと思います」

